

狹山市遺跡調査会報告 第5集

# 富士塚遺跡

1993

埼玉県狹山市遺跡調査会



狹山市遺跡調査会報告 第5集

ふじづか  
富士塚遺跡

1993

埼玉県狹山市遺跡調査会



## 序

狭山市は、関東平野のほぼ中央に位置し、埼玉県西南部に当たる武藏野丘陵地帯にあります。

地形的には、名栗村から発して荒川に注ぐ入間川が市域の中央やや北寄りを貫流し、市街地を二分して河岸段丘を形成しています。この河岸段丘は、おおむね平坦地で畠地と武藏野の平地林で形成されており、遺跡分布調査の結果67か所の遺跡の所在が確認されています。

昭和50年代に入り、開発に伴う宅地造成等が遺跡の所在地に多くなってきたことに対応して、遺跡の保護のため発掘調査を行って記録保存を実施しているところです。

本書は、昭和59年度に発掘調査を実施した富士塚遺跡の記録保存の報告書です。ここに、その成果を明らかにして広く市民各位及び研究者のご指導、ご助言を仰ぐ次第です。

最後に、遺跡の調査をご快諾いただいた土地所有者、地元関係者各位に対して厚くお礼申し上げます。

狹山市遺跡調査会

会長 武居富雄

## 例　　言

1. 本書は、昭和59年に狭山市柏原字富士塚295番地の発掘調査を実施した富士塚遺跡第1次の調査報告書である。
2. 調査及び整理の期間は、昭和59年10月8日～平成5年3月31日までである。
3. 調査の文化庁通知は、昭和60年1月25日付　委保第5の41号である。
4. 発掘調査は、郷土開発株式会社の依頼を受け、富士塚遺跡調査会が実施し、小潤良樹が担当した。
5. 平成4年5月に各調査会を統合し、狭山市遺跡調査会と名称を改めた。
6. 本書の福集は、狭山市遺跡調査会が行った。
7. 本書の執筆は、調査担当者が行い、挿図の作成及び遺構の写真撮影は、調査担当者と大竹幸喜、宮野将仁が行った。
8. 発掘調査及び整理、本書作成の過程において下記の方々のご指導、ご助言を賜った。  
ここに厚く感謝の意を表す。

飯田充晴、斎藤祐司、笹森健一、曾根原裕明、中平　薰、埼玉県教育局文化財保護課

# 目 次

序

例 言

目 次

挿図目次

図版目次

第1章 調査の概要.....	1
第1節 調査に至る経過.....	1
第2節 調査経過.....	1
第2章 狹山市及び周辺遺跡の立地と環境.....	2
第3章 富士塚遺跡の調査.....	5
第1節 遺跡の概要.....	5
第2節 遺構と遺物.....	7
第4章 結 語.....	12

## 挿 図 目 次

第1図 狹山市周辺遺跡図 (1/50,000)
第2図 富士塚遺跡周辺地形図 (1/5,000)
第3図 全体測量図 (1/300)
第4図 標準土層図 (1/60)
第5図 第1号住居跡 (1/60)
第6図 第1号住居跡北カマド (1/30)
第7図 第1号住居跡東カマド (1/30)
第8図 第2号住居跡 (1/60)
第9図 第2号住居跡カマド (1/30)
第10図 土壇 (1/60)

## 図 版 目 次

図版1 全景・第1号住居跡
図版2 第2号住居跡・第1号住居跡カマド
図版3 第2号住居跡カマド・第1号土壇
図版4 第2号土壇・第3号土壇
図版5 第4号土壇・第5号土壇
図版6 第6号土壇・第7号土壇
図版7 調査風景

## 組 織 表

### 発掘調査

#### 狹山市富士塚遺跡調査会

- 会長 市川正男（狹山市教育委員会教育長）  
理事 宮崎茂景（狹山市文化財保護審議会委員長）  
理事 久保田福造（狹山市教育委員会教育次長）

### 事務局

- 事務局長 山崎 稔（狹山市教育委員会社会教育課長）  
事務局 梅田久詞（狹山市教育委員会社会教育課社会教育係長）  
事務局 末吉 隆（狹山市教育委員会社会教育課職員）  
調査担当 小瀬良樹（狹山市教育委員会社会教育課職員）

### 整理・報告書刊行

#### 狹山市遺跡調査会

- 会長 武居富雄（狹山市教育委員会教育長）  
理事 斎藤勝次（狹山市文化財保護審議会委員長）  
理事 山崎 稔（狹山市教育委員会教育次長）  
理事 水越昭久（狹山市教育委員会社会教育担当参事）  
監事 高橋彦一（狹山市文化財保護審議会委員）  
監事 田口定一（狹山市会計課長）

### 事務局

- 事務局長 牛窪忠洋（狹山市教育委員会社会教育課長）  
事務局 石田公一（狹山市教育委員会社会教育課文化財係長）  
事務局 石塚和則（狹山市教育委員会社会教育課文化財係職員）  
事務局 松嶋直人（狹山市教育委員会社会教育課文化財係職員）  
整理担当 小瀬良樹（狹山市教育委員会社会教育課文化財係職員）

### 調査・整理参加者

#### 調査員

仲山英樹

#### 協力員

石原千鶴子、江原貞一、岡田健男、岡野 稔、小林正明、斎藤延三郎、豊泉貞次、西留幸子、  
保坂徳二、穂満みち子、前谷達也、三浦良子、水村弘子、宮野特仁、山川淑恵、山岸義造、  
山崎好子、山下泰永、吉田正平、吉野源三郎

# 第1章 調査の概要

## 第1節 調査に至る経過

昭和59年9月20日に郷土開発株式会社から狹山市柏原字富士塚295番地に貸倉庫建設をする届が提出された。当該地は、埋蔵文化財包蔵地（県遺跡番号22009）の範囲内に入っていた。そこで、発掘調査をして記録保存をする必要があり、その前段階である確認調査を実施するよう通知した。

その後協議を行い、確認調査を実施して結果により発掘調査の要不を決定することとし、遺構を検出した場合は遺跡調査会を設立して発掘調査をすることとした。

開発区域は台地端部からかなり奥に入っており、埋蔵文化財包蔵地の範囲に半分ほどかかった所である。確認調査は先ず範囲内を実施し、必要があれば開発区域全体にわたり実施することとして、昭和59年7月16日から確認調査を実施した。調査の結果、住居跡を2軒検出したので再度協議を行い、調査区域を設定し調査費用について話し合いをした。その結果調査区域を住居跡を検出した所に限定し、調査会を設立して調査を実施することとなった。

昭和59年8月22日に狹山市教育委員会内に富士塚遺跡調査会が発足した。昭和59年9月20日付で郷土開発株式会社から埋蔵文化財発掘届が文化庁長官あて提出され、同日狹山市富士塚遺跡調査会と発掘調査委託契約が締結された。

昭和59年9月27日付で狹山市富士塚遺跡調査会から埋蔵文化財発掘調査届が提出され、10月8日から調査が開始された。

## 第2節 調査の経過

10月8日 調査器材を搬入。杭打ち及び標高の移動を実施。

10月13日 重機を導入して表土を除去。表土はやわらかい褐色の耕作土で40~50cmの厚みがある。

それを除去するとロームが現れる。ごぼうの耕作による擾乱がひどく、遺構確認は困難を極めたが住居跡2軒を検出した。

10月15日 遺構確認作業を実施し、住居跡を2軒検出。杭打ち終了。

10月16日 遺構確認作業を実施し、あらたに土壤18基を検出。住居の表面から焼土や炭化材が出土。

10月18日 住居跡の調査。ごぼうの擾乱のため壁の確認が困難であった。

10月22日 住居跡の調査。遺構写真を撮影。各種図面を作成。

10月24日 土壤の調査。

10月25日 住居跡のカマドを切開。

10月26日 全体測量を実施。住居跡の床面を精査し、貼床部分を掘削。

本日で調査を終了し、器材を撤収した。

## 第2章 狹山市及び周辺遺跡の立地と環境

狹山市は、埼玉県南西部に位置する人口15万人の都市である。主要交通路は、鉄路では西武新宿線、道路では国道16号線と国道299号線がある。市の主要産業は農業であったが、昭和37年に川越工業団地、昭和46年に狹山工業団地が造成され、現在では、工業製品出荷額が埼玉県第1位をほこる工業都市となっている。このなかで、東京環状線として機能している国道16号線が重要な位置を占めている。また、副都心新宿に約50分で行ける便利さは、東京方面への通勤圏として住宅地となり、都市化現象もみられる。

### 〈立地〉

埼玉県の地形は、西部の山岳地から順次標高を下げ、武藏野台地等を経て東部の低地へと続く。中央部の台地は、山地から流れだす中小河川によって浸蝕され、多くの河岸段丘を形成している。入間川もその一つで、市内では武藏野台地を開析して南部の狹山市街地をのせる段丘（武藏野台地）と、北部の広瀬・柏原地区等をのせる段丘（入間台地）を形成している。入間川の流れは、南西から北東に向いており、水富地区から開析谷の幅を徐々に広げ、川越市の落合橋付近で南東流していく越辺川と合流する。河岸段丘は、南側で3段、北側では2段であり、上流の笹井では3段となっている。

狹山市南部では、入間川とおおむね同方向に流れる不老川に開析された地形を呈しているが、その川は冬の渇水期には流れがなくなり、開析の度合は進んでいない。

段丘上は、ほぼ平坦であるが微地形は複雑で、入間川の流れと同方向に埋没谷がいくつかみられる。段丘崖は急傾斜を呈し、湧水が認められる所もいくつかある。遺跡は、各時代を通じてこの段丘崖に沿って認められる。

### 〈狹山の遺跡〉

当市には、67か所の遺跡が所在する。時代別の遺跡数は、旧石器時代4、縄文時代44、古墳時代6、奈良・平安時代41である。遺跡の大半は、入間川の両岸段丘上に立地する。（増田他 1986）。右岸は、入間川町の市街地をのせる段と入間基地をのせる段の2段に遺跡が所在し、左岸は笹井地区では3段に所在し、他は最上段に立地する。入間川流域以外では、左岸段丘の奥にある智光山公園を水源とする小河川の両岸に11遺跡が集中している。遺跡の時代別立地状況の特色は、特に認められない。次に各時代について概観する。

#### 旧石器時代

遺物は、表採資料で数点発見されている。森ノ上西⑩・上中原の両遺跡では、ナイフ形石器が発見されている。

平成2年に、首都圏中央連絡道路の建設に先立って根岸に所在する西久保遺跡の発掘調査が埼玉県埋蔵文化財調査事業団によって行われ、ナイフ形石器等が出土している。

#### 縄文時代

時期別では、草創期2、早期3、前期19、中期37、後期16、晩期0である。草創期は、上広瀬上ノ原⑪・下双木の両遺跡で尖頭器が発見されている。早期は、昭和44年に調査が実施された今宿遺

跡⑩（小渕 1987）で茅山式期の野外がが発見されている。前期は、昭和56年調査を実施した掲櫛木遺跡で、黒浜期の住居跡を9軒検出し、多量の土器と石器が出土した。中期は、前期の掲櫛木遺跡と昭和46・56年に調査を実施した宮地遺跡⑧で住居跡61軒と敷石住居跡3軒、土壤多数を検出した。宮地遺跡では、勝坂期から加曾利E IV期までの時期があり、環状集落を呈している。後期は、高根遺跡の調査で堀ノ内期の包含層を検出し、多量の土器が出土している。

#### 古墳時代

古墳群3か所と集落跡が確認されている。昭和56年に調査を実施した淹祇園遺跡（小渕 1983）では、後期の鬼高期に属する住居跡を1軒検出している。古墳は、昭和53年の笹井古墳群で半地下式構造を呈するものが1基検出されている。他にも、上広瀬古墳群⑪・稻荷山公園古墳群⑫で工事等で半地下式構造の古墳が発見されている。

昭和63年に市営住宅の立て替えに伴い遺跡の一部を発掘調査したところ、古墳5基を検出した。いずれも埋葬施設は地下に石室を構築している。石室から鉄製の直刀、鎌、刀子、ガラス製小玉、水晶製切子玉などが出土している。

#### 奈良・平安時代

この時代は、狭山市で特に遺跡が多いところで、入間川の両岸台地上は当該期の遺跡がほとんどである。調査した遺跡も多く、宮地・上広瀬上ノ原（小渕 1985）・今宿・森ノ上・富士塚⑬・小山ノ上⑭（中村 1988、小渕 1988）・城ノ越（増田 1978、小渕 1985）・宮ノ越（駒見 1982）・掲櫛木（小渕 1986）・稻荷山⑮の10遺跡がある。検出した遺構は、竪穴住居跡が254軒、掘立柱建物跡が55棟、墳墓6基である。

#### 鎌倉時代以降

城柵関係では、入間川左岸に城山砦跡（廓の一部）が所在する。現在、土壘と堀に囲まれた一廓が遺在している。ここから上流1kmの地点に本書で報告する小山ノ上遺跡⑯で検出した堀が所在する。このほかには、武藏野台地に特徴的にみられる深井戸が七曲井・堀兼之井・八軒家の井の3基所在する。七曲井は、昭和45年に発掘調査を実施してロート状の堀り方と井桁を検出、多量の陶磁器が発見されている。これらの井戸は、埼玉県教育委員会が実施した歴史の道の調査で確認された鎌倉街道に隣接しており、この街道と密接な関係がうかがえる。街道は、3本の道筋（あ～う）が確認されており、（あ）は本道として、（い）は堀兼道として位置付けられている。（あ）は、北が日高町女影付近を通り鳩山町今宿へ抜け、南は所沢市久米から東京都府中市へと抜けている。

（い）は、所沢市内で（あ）と分離して狭山市堀兼を通り、狭山市新狭山へと通じている。これらの道筋は、鎌倉時代以前の古道を整備したものともいわれており、奈良・平安時代の集落との関連が充分に考えられる。

遺跡名		遺跡名		遺跡名	
1 東八木窯跡群	(22049)	28 上の原東遺跡	(22065)	55 台遺跡	(22085)
2 八木遺跡	(22068)	29 上の原西遺跡	(22063)	56 稲荷山公園古墳群(22052)	
3 八木北遺跡	(22021)	30 半貫山遺跡	(22061)	57 稲荷山公園遺跡	(22051)
4 八木上遺跡	(22022)	31 稲荷山遺跡	(22058)	58 石無坂遺跡	(22083)
5 沢口上古墳	(22020)	32 前山遺跡	(22059)	59 富士見西遺跡	(22082)
6 笹井古墳群	(22019)	33 高根遺跡	(22062)	60 富士見北遺跡	(22072)
7 沢口遺跡	(22080)	34 町久保遺跡	(22034)	61 富士見南遺跡	(22081)
8 宮地遺跡	(22018)	35 宮原遺跡	(22017)	62 町屋道遺跡	(22088)
9 金井遺跡	(22071)	36 下双木遺跡	(22078)	63 七曲井	(22046)
10 金井上遺跡	(22023)	37 上双木遺跡	(22077)	64 堀兼之井	(22047)
11 上広瀬上ノ原遺跡(22005)		38 上広瀬西久保遺跡(22073)		65 八軒家の井	(22076)
12 霞ヶ丘遺跡	(22004)	39 東久保遺跡	(22070)	66 八木前遺跡	(22087)
13 今宿遺跡	(22002)	40 西久保遺跡	(22069)	67 金堀沢遺跡	(入間市)
14 上広瀬古墳群	(22001)	41 上諏訪遺跡	(22086)	68 坂東山遺跡	(入間市)
15 森ノ上西遺跡	(22079)	42 滝祇園遺跡	(22066)	69 東金子窯跡群(入間市)	
16 森ノ上遺跡	(22008)	43 峰遺跡	(22024)	70 新久窯跡群(入間市)	
17 富士塚遺跡	(22009)	44 戸張遺跡	(22026)	71 八坂前窯跡群(入間市)	
18 鳥ノ上遺跡	(22010)	45 揭櫛木遺跡	(22027)	72 前内出窯跡群(入間市)	
19 小山ノ上遺跡	(22011)	46 坂上遺跡	(22029)	73 芦刈場遺跡(飯能市)	
20 御所の内遺跡	(22012)	47 稲荷上遺跡	(22032)	74 張摩久保遺跡(飯能市)	
21 英遺跡	(22074)	48 上中原遺跡	(22089)	75 中原遺跡(飯能市)	
22 城ノ越遺跡	(22013)	49 中原遺跡	(22025)	76 ヤタリ遺跡(飯能市)	
23 宮ノ越遺跡	(22016)	50 沢台遺跡	(22079)	77 若宮遺跡(女影庵寺を含む)(日高町)	
24 字尻遺跡	(22075)	51 沢久保遺跡	(22041)		
25 丸山遺跡	(22037)	52 下向沢遺跡	(22042)	78 宿東遺跡(日高町)	
26 金井林遺跡	(22035)	53 吉原遺跡	(22067)	あ 錫倉街道上道(本道)	
27 鶴田遺跡	(22044)	54 下向遺跡	(22085)	い 錫倉街道上道(堀兼道)	
				う 錫倉街道上道枝道	

図中における日高町所在の遺跡は『日高町遺跡分布調査報告書』(中平 1980)に、飯能市所在の遺跡は『飯能市遺跡分布地図』(曾根原 1983)・『飯能 遺跡(1)』(曾根原 1984)によった。なお鎌倉街道上道の道筋は埼玉県教育委員会『鎌倉街道上道』において推定されたものを記載した。



第1図 狹山市及び周辺の道路図 (1/50000)

### 第3章 富士塚遺跡の調査

## 第1節 遺跡の概要

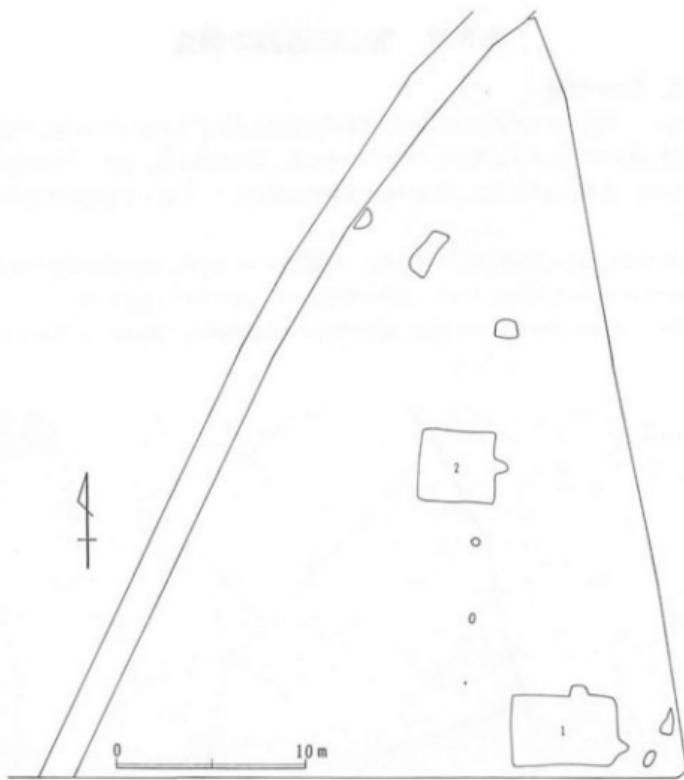
本遺跡は、入間川左岸の台地上に立地し、西武新宿線狭山市駅から北西に2kmの地点に所在する。遺跡の規模は450m×210m、面積にして56,000m<sup>2</sup>を測る。縄文時代中期、奈良・平安時代の複合集落遺跡である。遺物の散布状況は、縄文時代が東端部に集中して、奈良・平安時代は全体に分布している。

遺跡をのせる台地は入間川に面し、沖積地との比高差約12mを測る。台地上は概ね平坦であるが、西から東にかけてゆるく傾斜している。遺跡の南東端には、深い谷が入り込んでいる。

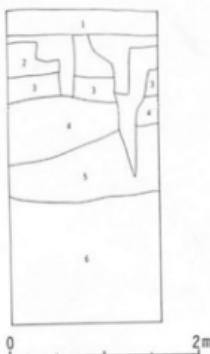
調査区は、33m×40mの三角形を呈し面積は742m<sup>2</sup>である。検出した遺構は、住居跡が2軒である。



第2図 道跡周辺地形図(1/5,000)



第3図 全体測量図(1/300)



第4図 標準土層図(1/60)

## 第2節 遺構と遺物

### 第1号住居跡（第5・6・7図）

本跡は、調査区の南端にて検出された。第2号住居跡とは10m離れている。ごぼうの耕作がひどく、床面下にまで攪乱され遺存状態は不良である。

プランは、長方形を呈する。規模は、東西5.40m、南北3.70mを測る。床面積は、19.98m<sup>2</sup>である。主軸方位は、N-95°-Eを示す。壁はほぼ垂直に立ち上がり、20cmを測る。壁溝・柱穴は検出されなかった。床面は平坦で、堅く踏み固められている。

カマドは北壁と東壁とに所在する。北壁カマドは住居内構造物が既に取り払われており、東壁のカマドを最終まで使用していたものと思われる。

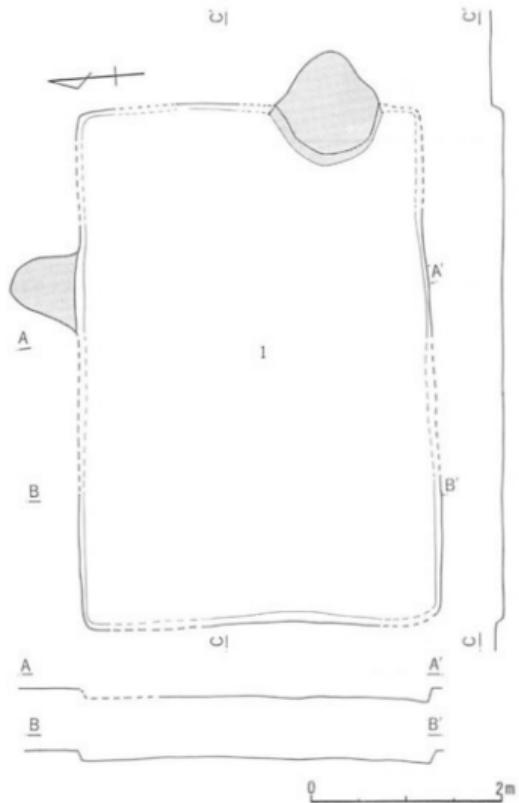
北カマドは、北壁の東寄りに位置する。規模は、幅0.85m、長さ1.04mを測る。掘り方は隅丸の

方形を呈する。住居内の構造物は、既に取り払われておらず所在しない。焼土が厚く堆積しており、使用期間が長いものと推測される。

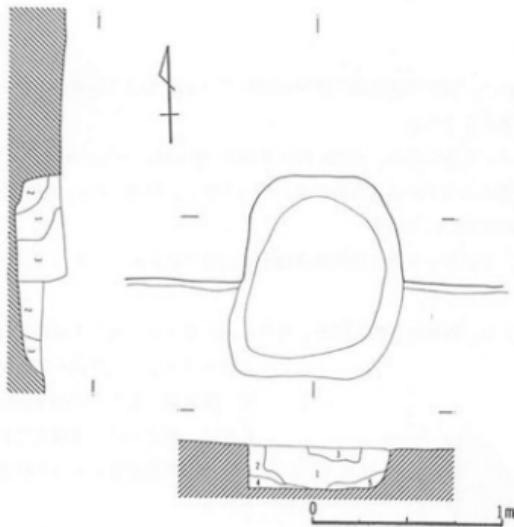
東カマドは、東壁の南寄りに位置する。規模は、幅0.6m、長さ1.35mを測る。壁外への掘り込みは釣鐘状に0.7mを測る。攪乱により破壊が著しい。焼土は少なく、また地山のロームもやけでていないことから使用期間は短いと考えられる。

#### 出土遺物

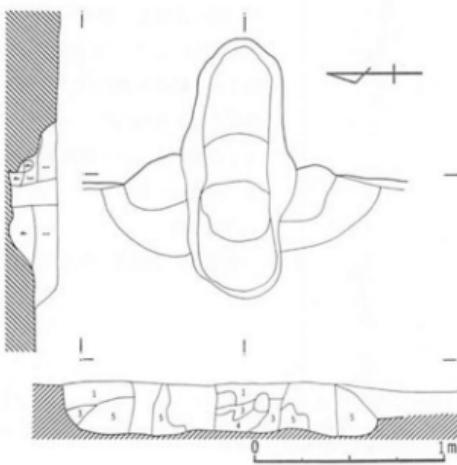
須恵器・土師器の小破片が出土。



第5図 第1号住居跡 (1/60)



第6図 第1号住居跡北カマド (1/30)



第7図 第1号住居跡東カマド (1/30)

第1号住居跡北カマド土層注  
 第1層 灰赤褐色土 焼土層  
 第2層 暗灰褐色土 焼土を多量に含む。  
 第3層 黒褐色土 ロームブロック・  
 ローム粒子を含む。  
 第4層 ローム  
 第5層 暗灰赤褐色土 焼土・ローム  
 ブロック・ローム粒子を多量に  
 含む。

第1号住居跡東カマド土層注  
 第1層 黒褐色土 焼土粒子をわずかに含む。  
 第3層 灰褐色土 焼土を多量に含む。  
 第4層 暗赤褐色土 焼土ブロックを多量に含む。  
 第5層 灰褐色粘土

## 第2号住居跡（第8・9図）

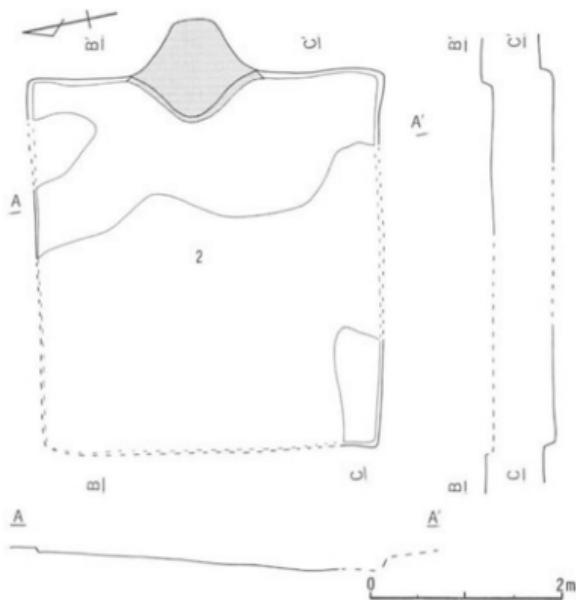
本跡は、調査区の中央にて検出された。第1号住居跡と10m離れている。擾乱がひどく、住居跡の東側と南西コーナー部だけ検出できた。遺存状態は不良である。

プランは長方形を呈する。規模は、東西3.93m、南北3.63mを測る。床面積は14.26m<sup>2</sup>である。主軸方位は、N-95°-Eをしめす。壁はやや斜に立ち上がり20cmを測る。壁溝は検出されなかつた。床面は平坦で、堅くしまっている。

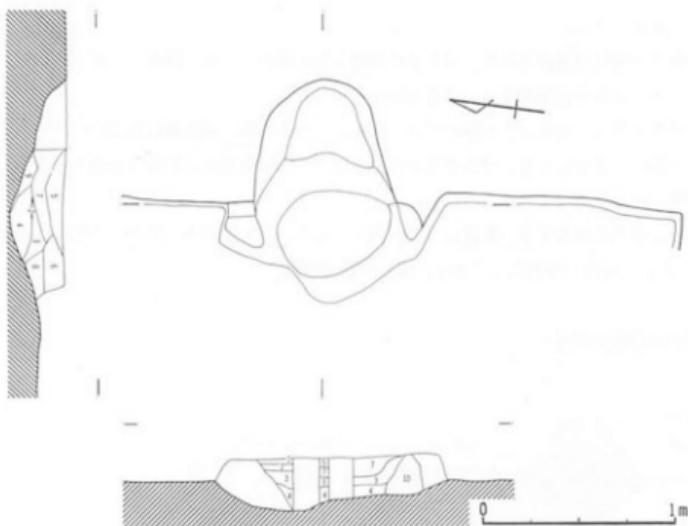
カマドは、東壁の中央に位置する。規模は、幅0.75m、長さ1.15mを測る。壁外への掘り込みは半円形に0.7mを測る。擾乱が多数入っており、遺存状態は悪い。

### 出土遺物

須恵器・土師器の小破片が出土。



第8図 第2号住居跡 (1/60)



第9図 第2号住居跡カマド (1/60)

第2号住居跡カマド土層注

- 第1層 黒褐色土 しまりがよい。粘成なし。ローム粒子・焼土、粘土塊を含む。
- 第2層 黄褐色土 粘成あり。焼土・粘土を含む。
- 第3層 明黄褐色土 焼土を多量に含む。
- 第4層 暗黄褐色土 焼土を含む。
- 第5層 明黄褐色土 ローム粒子を多量に含む。

第6層 灰褐色土 焼土微粒子を含む。

- 第7層 暗灰褐色土 ローム粒子含む。
- 第8層 明灰褐色土 しまりあり。
- 第9層 黄褐色土 ローム粒子を含む。
- 第10層 灰色粘土

1号土壤 (第10図)

本跡は、調査区の中央にて検出された。プランは円形を呈する。規模は、直径1.10m、深さ0.2mを測る。底は平坦で、壁は斜に立ち上がる。

2号土壤 (第10図)

本跡は、調査区の中央にて検出された。プランは長方形で短辺側が丸くなっている。規模は、長軸1.00m、深さ0.55mを測る。床面は平坦で、壁は斜に立ち上がる。

3号土壤 (第10図)

本跡は、調査区の北西端にて検出された。調査区外にかかり半分の調査となった。プランは円形を呈する。規模は、直径1.07m、深さ0.2mを測る。床面は平坦で、壁は斜に立ち上がる。

4号土壤 (第10図)

本跡は、調査区の中央やや南にて検出された。プランは円形を呈する。規模は、直径0.26m、深さ0.1mを測る。

### 5号土壤 (第10図)

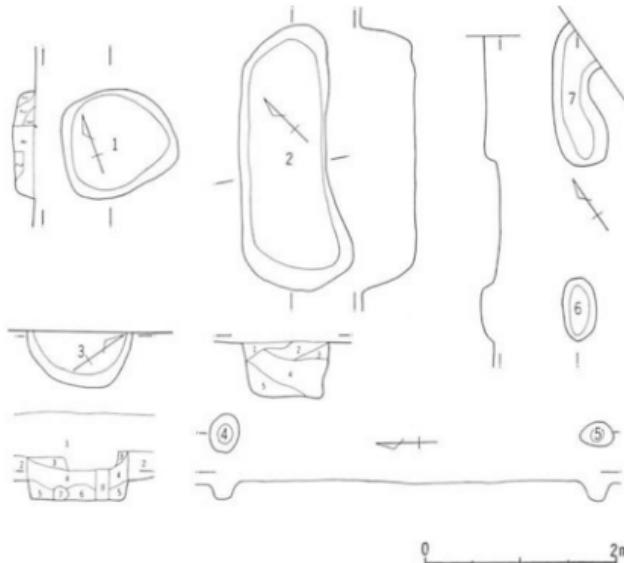
本跡は、調査区の中央やや南にて検出された。4号土壤と3.52mの距離がある。プランは円形を呈する。規模は、直径0.26m、深さ0.2mを測る。

### 6号土壤 (第10図)

本跡は、調査区の南端にて検出された。プランは楕円形を呈する。規模は、長軸0.65m、短軸3.5m、深さ0.1mを測る。底は船底状を呈する。

### 7号土壤 (第10図)

本跡は、調査区の南端にて検出された。プランは不整形である。深さは0.12mを測り、底は平坦である。



第10図 土 壤 (1/60)

#### 1号土壤土層注

- 第1層 暗褐色土 ローム粒子を多く含む。
  - 第2層 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロックを多く含む。
  - 第3層 黒褐色土 ローム粒子・ロームブロックを多く含む。
  - 第4層 混乱
- 2号土壤土層注
- 第1層 混乱
  - 第2層 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。
  - 第3層 暗褐色土 2層と同じだがロームブロックを含む。
  - 第4層 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロックを多く含む。
  - 第5層 暗褐色土

#### 3号土壤土層注

- 第1層 耕作土
- 第2層 暗褐色土 ローム粒子を含む。
- 第3層 黑褐色土 ローム粒子を少量含む。
- 第4層 黑褐色土 ロームブロックを含む。
- 第5層 黑褐色土 4層と同じだがロームブロックが多い。
- 第6層 明褐色土 ローム粒子が多い。
- 第7層 ロームブロック
- 第8層 混乱

## 第4章 結語

今回の調査で、住居跡を2軒検出した。当地は入間ごぼうの産地で機械により収穫することから表土が浅いとローム面まで耕作されてしまう。その為遺構の保存状態が非常に悪い。検出した2軒の住居跡も耕作の為住居が存在したことを示すだけのような状態であった。

第1号住居跡は、長方形プランで異様に長い住居であった。主軸方位は、2軒の住居ともほぼ同じ向きであった。

出土遺物がほとんどなく、時期の決定にかける。

隣接する森ノ上遺跡で、奈良・平安時代の集落が調査されており、住居跡30軒と掘立柱建物跡11棟が検出されている。距離的に非常に近いので同一の集落と考えられ、この遺跡の成果とともに分析する必要がある。

### 引用・参考文献

- 小渕良樹 1985「城ノ越遺跡3次」狭山市埋蔵文化財調査報告書 狹山市教育委員会  
1986「掲櫛木遺跡」狭山市埋蔵文化財調査報告書4 狹山市教育委員会  
1987「今宿遺跡」狭山市埋蔵文化財調査報告書5 狹山市教育委員会  
1988「小山ノ上遺跡2～5次」狭山市埋蔵文化財調査報告書7 狹山市教育委員会  
駒見和夫 1982「宮ノ越遺跡」埼玉県遺跡調査会報告第44集 埼玉県遺跡調査会  
埼玉県歴史資料館 1983「鎌倉街道上道」歴史の道調査報告書第1集 埼玉県教育委員会  
曾根原裕明 1983「飯能市遺跡分布図」飯能市教育委員会  
1984「飯能遺跡(1)」飯能市教育委員会  
中平 薫 1980「日高市遺跡分布調査報告書」日高町教育委員会  
中村倉司 1988「小山ノ上」埼玉県埋蔵文化財調査報告書 埼玉県埋蔵文化財調査事業団  
増田正博 1978「城ノ越遺跡」狭山市城ノ越遺跡調査会  
増田正博・鹿島英明・小渕良樹 1986「狭山市史 原始・古代編」狭山市

# 図 版

図版 1

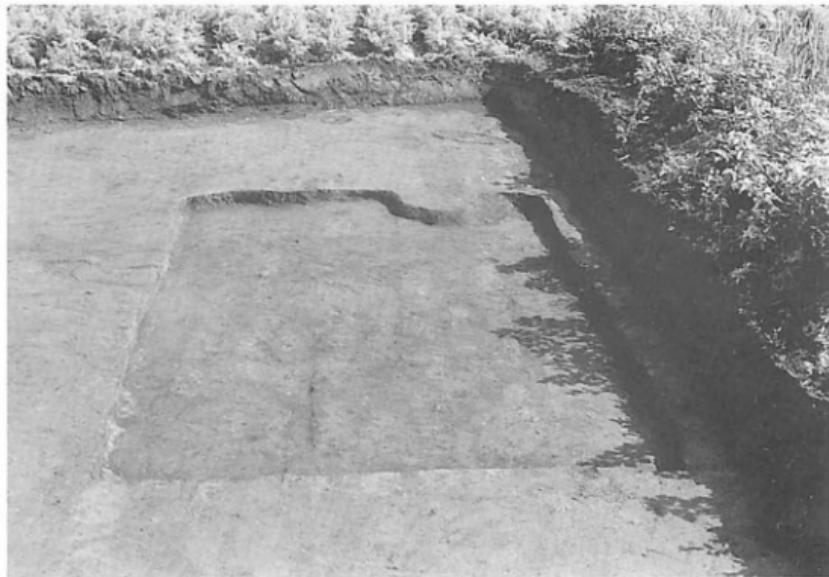


全 景

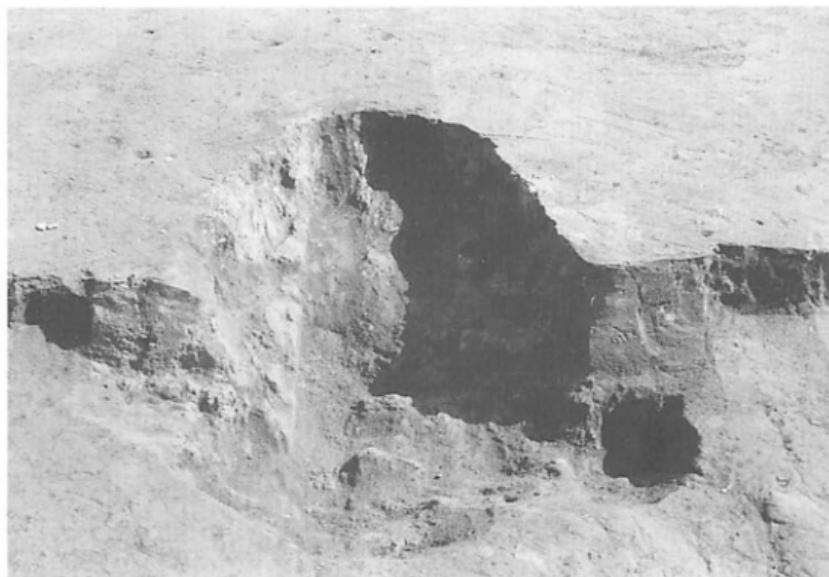


第 1 号住居跡

図版 2



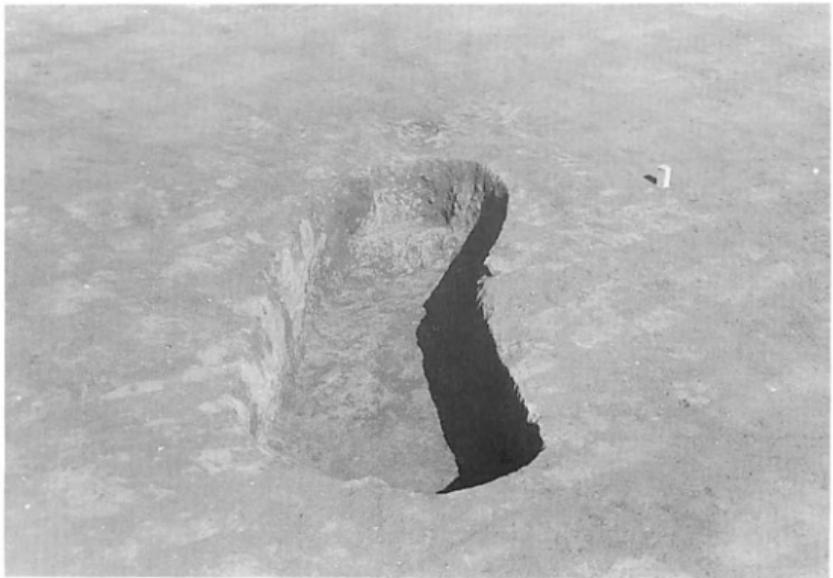
第2号住居跡カマド



第1号住居跡カマド



第2号住居跡

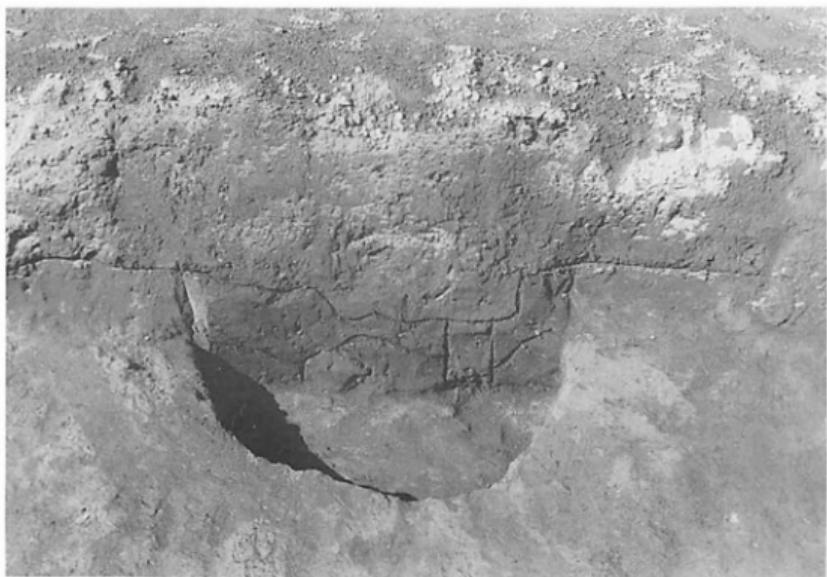


第1号土塙

図版 4



第2号土塙



第3号土塙



第4号土塊



第5号土塊

図版 6



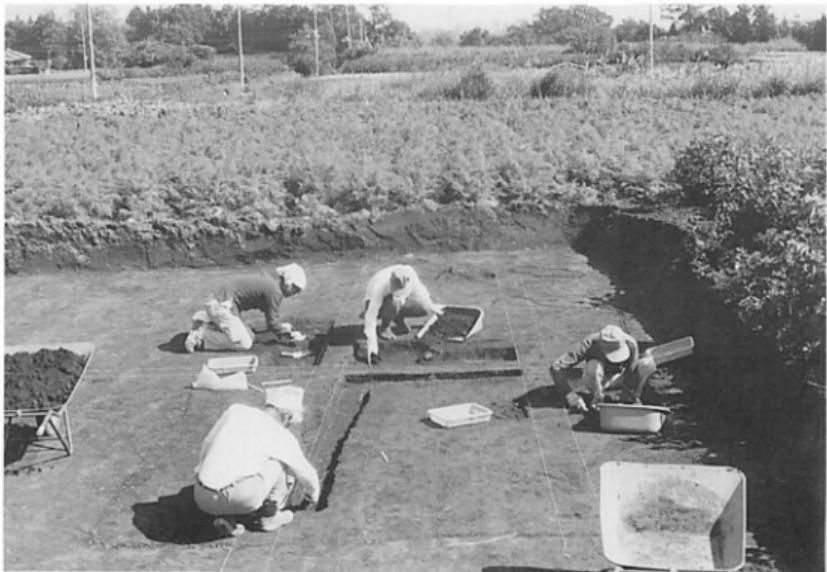
第6号土塊



第7号土塊



調査風景



調査風景

報 告 書 抄 錄

ふりがな	ふじづかみせき							
書名	富士塚遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名	狭山市遺跡調査会報告							
シリーズ番号	第5集							
著者氏名	小瀬 良樹							
編集機関	埼玉県狭山市遺跡調査会							
所在地	〒350-1380 埼玉県狭山市入間川1-23-5				TEL04-2953-1111			
発行年月日	西暦1993(平成5)年8月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		世界測地系		調査期間 (m)	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因
市町村	遺跡番号	北緯	東經					
ふじづかみせき 富士塚遺跡	さいたまけんさやまし 埼玉県狭山市 むじづかみせき 柏原字富士塚295番地	22	9	35.87255	139.39707	19841008 ～19841026	742	貸倉庫建設
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
富士塚遺跡	集落跡	縄文・奈良・平安時代		住居跡 土壤	2軒 7基	須恵器・土師器の小破片		

平成5年8月25日 印刷  
平成5年8月30日 発行

狹山市遺跡調査会報告 第5集  
富士塚遺跡

発行 県立狭山市遺跡調査会  
埼玉県狭山市入間川1-23-5  
狹山市教育委員会内  
電話 0429(53)1111  
印刷 三木五十子印刷  
埼玉県狭山市狭山14-8  
電話 0429(52)2701

【正誤表】

富士塚遺跡

(狭山市遺跡調査会報告 第5集)

ページ	行	誤	正
組織表	8・16行目	山崎稔	山崎稔
	24行目	松シマ(山かんむり に島)直人	松島直人
4ページ	11 上広瀬上ノ原遺跡	22005	22007
	48 上中原遺跡	22089	22039
	49 中原遺跡	22025	22038

